

国府地区  
(日高地域)



日高東地区の中で国府地区を担当しています。当地区は日高の他地区と比べ比較的遊休農地も少ないように見受けられますが、農業従事者の不足、高齢化、有害鳥獣など問題は他地区と同様に山積んでいます。今から3年後、5年後のプランを立て地域の皆様と考える必要があると思います。



国府平野



和田推進委員  
国府地区



中村推進委員  
八代地区



平野農業委員  
国府・八代地区



安岡推進委員  
日高地区



宮岡農業委員  
日高地区



ピオトープ

八代地区  
(日高地域)



八代地区を担当していますが当地

区も御多分にもれず高齢化、後継者問題に悩まされていて遊休農地が増え、特に中山間地の田圃には顕著に現れています。そんな中で八代保育園に隣接する遊休農地をピオトープとして利用されています。メダカ、カエル、ドジョウ、タニシ、タガメ等の水生生物が生息し蓮も植えられ、7月頃には綺麗な花を咲かせ、園児達の目を惹かせています。また暖かくなると園児達がピオトープの中に入って、色々な水生生物を網で掬って水槽に採り勉強会が開かれます。たまにコウノトリも飛来し、園児達を喜ばせてくれます。

日高地区  
(日高地域)



6年前、先輩委員と農地パトロールに同行しました。各集落間に多少の差があるものの、概ね集落より山沿いの水路や農道及び周囲の栽培状況や未整備田など栽培環境の悪い



遊休農地

場所には遊休農地が多く認められました。その後、アンケートや聞き取り調査により有効利用や耕作依頼など実施するも、山間部はますます荒廃し、最近では平坦地や幹線道路沿いまで散見されるようになりました。年々増加する遊休農地は農家や集落、地域により、それぞれ複雑に絡み合った多種多様な要因があり、一つや二つの対策で解決するとは思えません。ここまでひどくなった反省も紧迫感もありません。農家も地域もいま一度振り返ってみる時期が来ているかも知れません。農家や地域で問題の解決ができればよいが...

(日高地区推進委員 安岡 平夫)

視察研修報告「丹波市農業委員会」  
委員活動を報告しました

今年度、11月29日に委員27名の参加により視察研修を実施しました。

研修先は丹波市農業委員会、丹波ひかみ農業協同組合でした。視察の目的は他の農業委員会の委員活動報告及び意見交換、また土地利用型農業について学び委員の研鑽を深めることです。

丹波市農業委員会との活動事例の報告会では丹波市から3名、当委員会から2名の委員から日頃の取り組みを報告して頂き、双方活発な意見交換を行いました。



丹波市農業委員会との活動事例報告会の様子

豊岡市農業委員会からの活動報告内容をご紹介します。

活動報告①

「豊岡市日高町西気地区の  
取り組み」

農地利用最適化推進委員  
和藤 達也

日高町西気地区の概要。区数7区、人口約700人、高齢化率43.1%、耕地面積約162ヘクタール、水稲作付面積76ヘクタール、担い手農家3名

西気地区の主な課題は次のとおり。①人口減少②人材の不足③不在地主農地の増加の懸念④獣害⑤農地中間管理事業の限界⑥農業用施設の老朽化⑦農地に携わる人の減少、農地保全に関する住民意識の希薄化

西気地区では今後も進むであろう耕作者の減少や遊休農地の増加を懸念し、危機管理を地区全体で共有して農地利用調整の検討を進めようと準備しています。地域内の農会長の会合での「いきいき

農地バンク方式」の検討や今後の農地管理について農家の意向調査や話し合いが行われています。現在、水稲作付面積15ヘクタールを地区内の担い手農家が担っています。持続可能な地域営農のためには担い手を主体とした農地の集積、集約化を進め、効率的な農地利用が出来るよう地区住民が協力して取り組む必要があります。今後も推進委員として地域の営農が継続していけるよう努めてまいります。



和藤達也推進委員  
(西気地区担当)

活動報告②

「再整備と農事組合法人の両輪で  
守る集落の未来」

農地利用最適化推進委員  
石原 章二

内町地区の概要。戸数34戸、農家戸数30戸、農地面積約18ヘクタール、高齢化率41.1%、内町農事組合法人(令和元年10月設立)

昭和40年代後半のほ場整備か



石原章二推進委員  
(奈佐地区担当)

そこで、効率よく生産性の高い農業を実現するべく、「農地中間管理機構関連農地整備事業」を利用し、ほ場の大区画化を計画しました。維持管理作業の負担になっている草刈りは、自走式草刈機や大型トラクターに装着する草刈機「ハンマーナイフモア」などを使用し、労力の大幅軽減を目指しています。

内町農事組合法人の組合員でワークショップを開催し、営農組合が10年後も元気に活動できるように様々なアイデアをまとめ農地集積に取り組みました。現在では「1集落1農場へ」として集落の全農地を内町農事組合法人へ集積して効率化を図っています。合言葉「心は一つ、力を合わせ、楽しく、仲良く、農地を守り、村繁栄」。今後も集落の農地保全のため活動していきます。